

第 1 章

自主防災組織とは

この章では、自主防災活動の必要性やリーダーとしての考え方などについて説明していきます。自主防災組織とはどのような役割を担っているのか、理解を深めていただきたいと思います。



1. 自主防災組織の必要性

東海地震のような大地震から自分や家族の命を守るためには、さまざまな災害発生に備え、普段から十分な対策を講じておかななくてはなりません。しかし、ひとたび大地震が発生すると、災害の拡大を防ぐためには、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人達が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

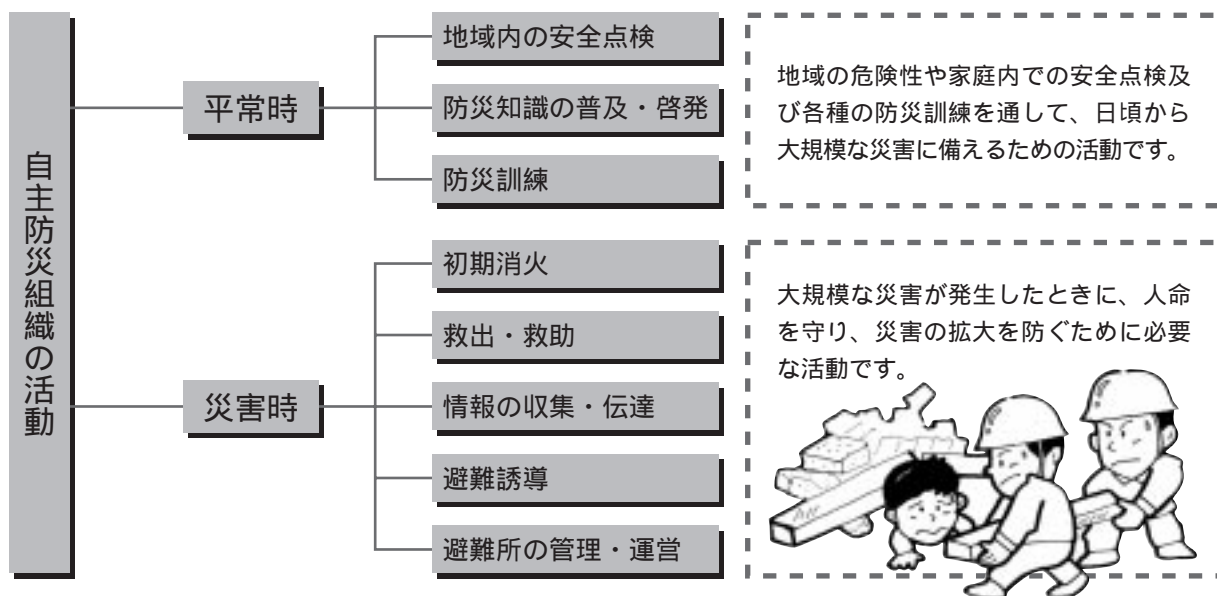
災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織、これが「自主防災組織」です。

事 例

平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」では、道路・鉄道・電気・ガス等都市基盤の崩壊や職員自身の被災から、発災直後は防災関係機関の活動が十分に機能しませんでした。その一方で、隣近所の多くの人々が協力し合い、救助活動に参加して尊い命を守った事例や、初期消火を行い延焼を防止した事例などが報告されています。

2. 自主防災組織の役割

自主防災組織は、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し被害を最小限に止めるため、日頃から地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など地震被害に対する備えを行い、また、実際に地震が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

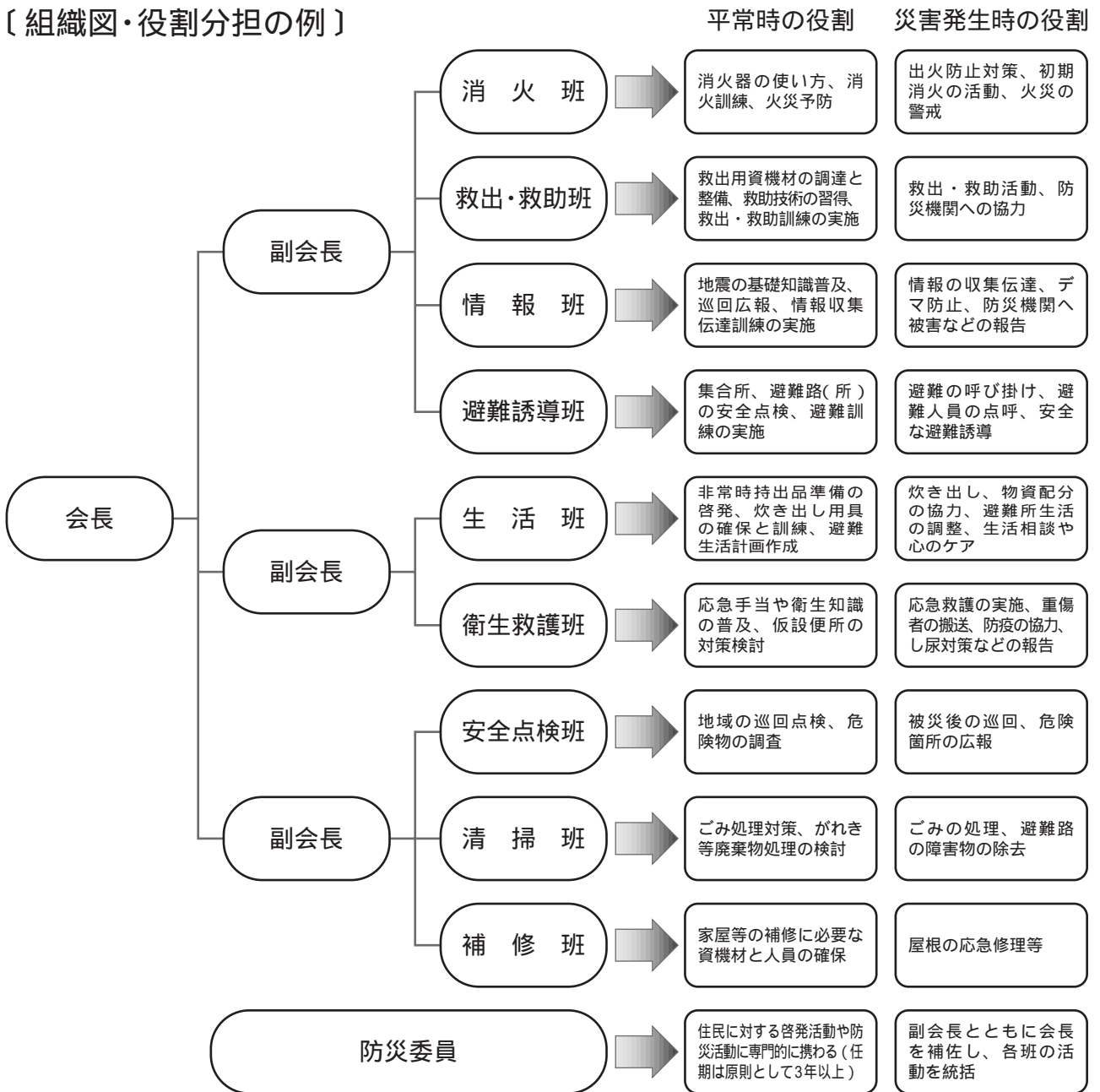


3. 自主防災組織とはどんな組織か

自主防災組織は、基本的に会長・副会長・防災委員を中心とした組織体制で概ね下の図のような役割別の班構成となっています。訓練を通じて必要な見直しを行いながら、地域の実態に応じた適切な組織体制としてください。

また、災害時には、計画どおりことが運ぶわけではないので、臨機応変に弾力的な運用や指揮命令ができるよう対策を考えておきましょう。

〔組織図・役割分担の例〕



班編成にあたり -

- ・ 地域の実情に応じた班編成を検討してください。
- ・ 昼間に災害が発生した場合と夜間に発生した場合とでの班編成人員をシミュレーションしてください。
- ・ 災害弱者対策は、専任の班をつくる気構えで取り組む必要があります。

4. リーダーとして行なうべきこと

自主防災組織のリーダーは、自らが防災に関する基本的な知識や技術を身につけるとともに、地域の安全点検、防災知識の普及、防災資機材の整備、危険が予想される箇所や自力で避難することが困難な災害弱者の把握、防災訓練の指導などを行い、日頃から住民の防災意識を高めることに努めます。

また、災害発生時には、自主防災組織を適切に指導し、率先して行動することが求められます。阪神・淡路大震災においては、ひとりの指導者が組織されていない住民を適切に指導し消火活動を行った結果、延焼をくい止めた例が報告されていることから、リーダーの役割は非常に重要なものといえます。



リーダーの役割(1) 自主防災組織の現状把握

ア 各種台帳の点検・整備

自主防災組織に最低限必要な台帳は、自主防災組織台帳、世帯台帳、人材台帳、要介護者台帳です。これらの台帳は、「組織内にどのような人がいるのか」「災害時に技術的に活用できる人はいるのか」「特に介護を必要とする人はどこに何人いるのか」などを把握するために重要な台帳となります。リーダーは常にこうした台帳を更新して「だれが、どこに」いるかを的確に認識しておく必要があります。さらに、地域内の団体等(事業所・各種ボランティア団体・女性の会・消防団・青年団・学校等)についても把握し、連携することにより、より組織的な活動ができることとなります。

ただし、これらの台帳についてはプライバシーに関わる事項もありますので、保管の方法については十分注意してください。

自主防災組織台帳 (P.72参照)

組織の世帯数、役員、防災訓練、座談会・講演会等の活動の状況や危険箇所、避難地及び装備品など自主防災組織の概要を年次ごとに記録しておくものです。年次ごとに人数や資機材などを点検の上、見直しが必要で、特に会長の引き継ぎ時には必ず次の会長に理解してもらうことが必要です。

世帯台帳 (P.75参照)

各世帯ごとに、構成員の属性や居場所について記入する台帳です。この台帳は避難地での世帯人員確認やケガをした場合の血液型の確認などに活用します。但し、プライバシーに係ると考えられる項目については書かなくてもよいこととするなどの配慮が必要です。

人材台帳 (P.76参照)

災害時の応急救護や救出救助に活用できる資格・技能を持った人材をまとめておく台帳です。

要介護者台帳 (P.77参照)

自主防災組織内で介護が必要な人など、地域に在住する災害弱者を把握するための台帳で、避難誘導の際や避難地での対応に役立てるものです。この台帳の作成にあたっては、地区の民生・児童委員の協力も必要となります。また、プライバシーの確保については十分注意するようにしてください。

要介護者とは……具体的には、要介護高齢者、傷病者(緊急医療手帳所持者など)、身体障害者、精神障害者をはじめ、日常的には健常者であっても理解能力や判断力を持たない乳幼児、体力的な衰えのある高齢者や、地理や災害に関する知識が乏しく、日本語が理解できない外国人などと考えてください。
注意：精神に障害を持つ方は、他人に自分の障害が判った事で大きな精神的衝撃を受ける場合がありますので、特に慎重に。

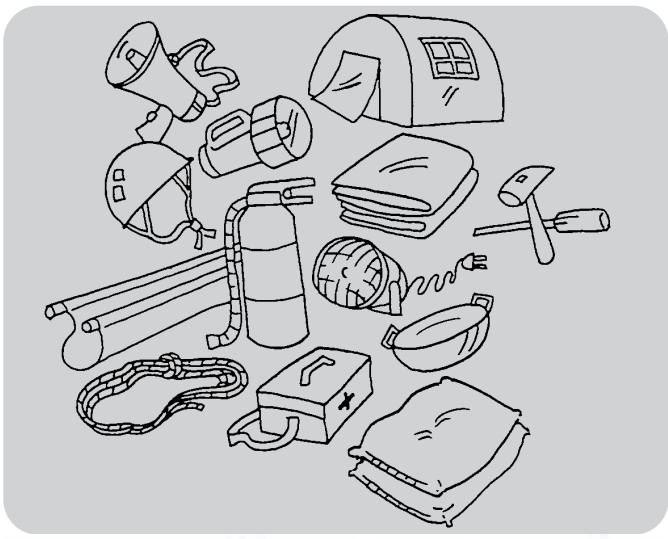
イ 防災資機材の点検・整備

自主防災組織に必要とされる防災資機材は概ね下表に示すものとなっています。これはあくまでも目安ですので、地域の実情（津波や山崖崩れの危険地域か延焼火災の危険地域か、世帯数はどれくらいか等）に応じて何がどれくらい必要なのかを検討してください。

次に、自分の地域に何があるのかを確認し、不足しているもの、新たに必要とされるものがあれば整備するようにしましょう。市町村によっては、補助制度を設けているところもありますので市町村防災担当課に相談してください。なお、いくら防災資機材が揃っていても、いざというときに使えないのでは意味がありません。日頃から、点検と取り扱い方法の習熟に努めるようにしてください。

自主防災組織の装備基準の参考例 300世帯の場合の目安

区分	品名	数量	
情報伝達用 資機材	電池メガホン	3	
	簡易無線機	1	
初期消火用 資機材	街頭用消火器	10	
	格納庫	10	
	バケツ	30	
	砂袋	200	
	D級可搬ポンプ又はC級可搬ポンプ	2	
救助用資機材	ホース乾燥施設	1	
	バール	5	
	丸太	5	
	折畳梯子	3	
	のこぎり	5	
	掛矢	3	
	斧	3	
	スコップ	10	
	つるはし	10	
	鍬	10	
	もっこ	10	
	石み	10	
	なた	5	
	ペンチ	5	
	鉄線はさみ	5	
	大ハンマー	3	
	片手ハンマー	5	
	一輪車	2	
	ロープ	2	
	ゴムボート	1	
	リヤカー	1	
	ジャッキ	3	
	チェーンソー	3	
	救助用資機材	担架	3
		救急セット	10
	避難生活用 資機材	強力ライト	6
		標旗・腕章	6
		ロープ	1
発動発電機		1	
釜（かまど付） 又は移動式炊飯機		3	
鍋		6	
受水槽（1トン）		1	
ろ水機（2トン/h）		1	
テント			
ビニールシート		100	
井戸			
燃料			
仮設トイレ			
非常用排便収納袋			
防災用毛布			
防災倉庫	1		
非常用食料			



- 点検を怠らない -
 点検の日を定め、定期的、計画的に、施設、設備、資機材を点検する。
 点検要領を定め、誰でも適正に必要な点検ができるようにする。
 点検は一部の人にまかせず、全員が交代でやる。

点検のポイント

有効期間の短いもの
有効期間の長いもの
機械類

電池メガホン、照明具、消火器、救急セットなど
バケツ、砂袋、避難用具、救助用具など
ポンプ、発電機、ろ水機など

早めに定期的にとりかえる。
古くなると使いものにならなくなる。
ていねいに手入れをする。

ウ 避難生活計画書の点検・整備

大地震発生時には多くの避難者が発生し大混乱となることが予測されます。避難生活を秩序よく運営するためには、あらかじめ避難生活計画書を作成しておく必要があります。

避難生活は複数の自主防災組織が集まって営まれるため、同じ避難地に避難する組織同士でよく話し合い、協力して避難生活計画書の作成を行うようにしてください。

避難生活計画書の作成

警戒宣言発令時の計画

警戒宣言発令から発災までの概ね3日間についての計画書を作成します。津波や山・崖崩れなどの危険が予想される地域の自主防災組織が作成します。

地震発生後(突然地震が発生したときを含む)の計画

地震発生後おおむね1ヵ月間の期間を想定して計画書を作成します。すべての自主防災組織が作成します。

避難生活計画書に記載すること

(1) 計画を策定する自主防災組織の概要

自主防災組織ごとに、避難生活者を把握しておきましょう。

自主防災組織名	全人数 (災害弱者数)	避難生活者数			計
		屋外避難 (災害弱者数)	緑地避難 (災害弱者数)	屋内避難 (災害弱者数)	
自主防災会	600 (20)	190	5 (2)	5 (3)	200 (5)

(2) 避難者台帳

自主防災組織ごとに、避難生活者台帳を作成しておきましょう。

No.	氏名	男・女	住所	屋外避難	屋内避難	緑地避難
1			町 -		小学校	
2			町 -	公園		
3			町 -			町 - 、宅
4						

(3) 避難所の概要

避難所ごとに、使用可能面積、収容可能人員及び避難を予定している自主防災組織ごとの人数等を把握しておきましょう。

施設名	使用可能面積(m ²)	収容可能人員(人)	自主防災組織名	構成人数(人)	備考
中学校	3,000	500	自主防災会	200	
			自主防災会	100	
			自主防災会	200	
公共建物表示番号	-	ヘリポート	可(大型 中型 小型)	(不可)	

(4) 避難生活者リスト

リストの作成は避難所を運営していく上で、最初に行わなければならない作業です。居住組ごとに作成しましょう。

No.	氏名	男・女	住所	備考
1			町 -	
2			町 -	
3			町 -	
4				

(5) 資機材などの状況

避難所ごとに、避難生活に必要な資機材の現況を把握し、記入しましょう。

資機材	資機材名		
情報収集伝達	防災行政無線 2台 NTT特設電話 3台	防災相互無線 3台 その他	
避難者台帳	(整備済)	未整備	
医療救護資材	(整備済)	未整備	
給水	ろ水機 5台	能力 1,000 /h	受水槽 12基
	ろ水機 3台	能力 500 /h	受水槽 5基
	ろ水機 1台	能力 /h	受水槽 1基
	使用予定水源(川)		
炊出	炊出し用資機材 35台		
給食施設	(有)	200人分	無
使用予定燃料	卓上コンロ	プロパン	(まき等) その他
照明	発電電動機 10台	電力 1kw	
寝具(毛布)	300枚	その他()	
仮設便所	健常者用 7基	災害弱者用 1基	
災害弱者用資機材	(整備済)	未整備	

(6) 避難生活上必要な対策

医療救護

軽傷者は自主防災組織の保健・衛生班で介護しましょう。中等傷者、重傷患者は基本的に自主防災組織で医療救護施設へ搬送します。

医療救護施設	医療施設名等	電話番号	派遣医師名等
救護所	小学校	-	(病院)
救護病院	病院	-	
最寄の医療機関	医院	-	
	診療所	-	

食料等の調達

当面(3日間程度)は、各家庭の備蓄食糧で対応し、不足する場合は市町村へ要請します。調達先について市町村と協議し、決めておきましょう。

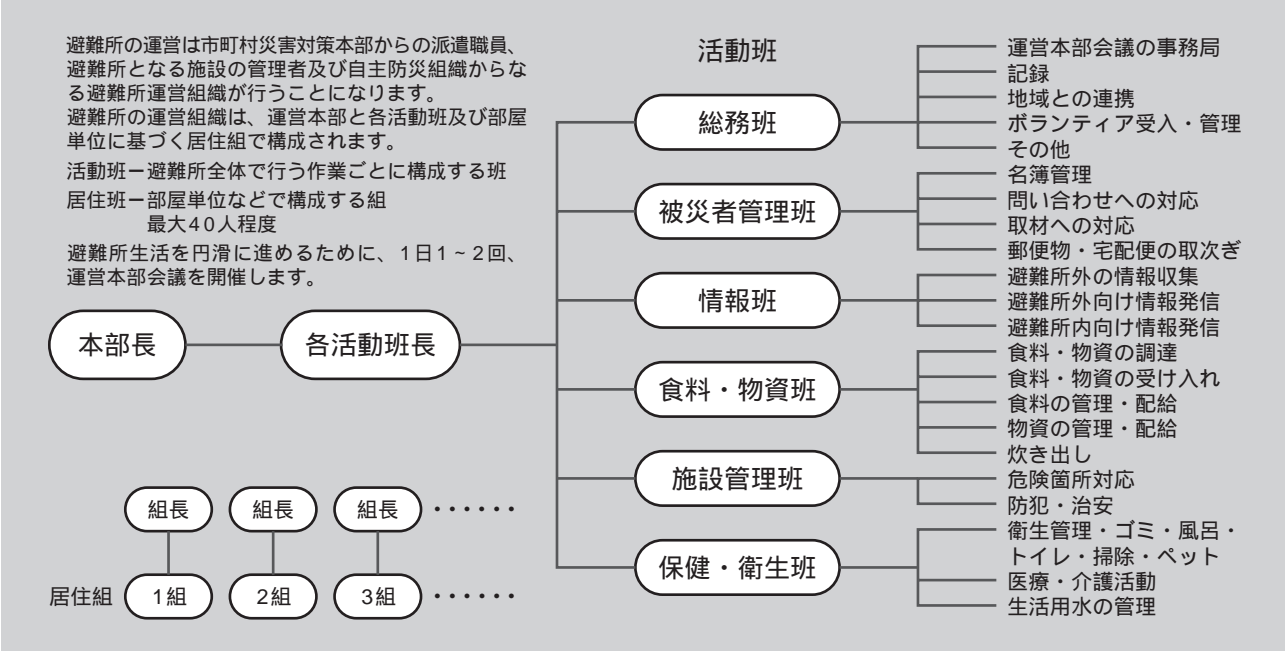
	調達予定先	電話番号	主要調達品目
食料	食品	-	缶詰、食用油、小麦粉
	商店	-	粉ミルク、ビスケット、ラーメン
	米穀店	-	米、乾物類
生活必需品	ふとん店	-	ふとん、毛布、シーツ
	衣料店	-	シャツ、下着類、タオル
	薬局	-	紙オムツ、ガーゼ、薬、洗剤
燃料	燃料店	-	プロパンガス、薪、炭

災害弱者対策

原則として家族で介護します。ボランティアの支援を受けることも考えましょう。家族などによる介護が困難な場合は、市町村と協議して、施設や病院へ搬送しましょう。

社会福祉施設名	電話番号	備考
荘	-	特別養護老人ホーム

避難所運営本部の例



リーダーの役割(2) 地域の状況把握と防災地図の整備

ア 地域の安全点検

防災の基本は、まず自分の住む地域にどのような危険があるのか、どんな人が住んでいるのかを知ることです。

次の事項について点検し、地域のことを良く知ろう！

地理的条件は？

- 地形、地質、水利
- 住宅密集度
- 被害想定に基づく要避難地の適否 など

社会的条件は？

- 世帯数、昼夜別人口
- 生活必需品の取り扱い店舗
- 行政の建物や医療機関の位置、所要時間
- 交通手段や通信手段（公衆電話の種類、数等） など

人間関係は？

組織内各世帯の家族構成

乳幼児、老人、病人等の居住状況

指定避難地に避難する世帯、人数

親戚等の縁故者に身を寄せる世帯、人数

技術、技能のある人（元消防士、元看護婦、防災士等）

ボランティア活動経験者等の有無

利用可能な建物所有者への協力依頼 など



防災上の危険要因は？

地域内にある道路、橋梁の幅

非常時における道路使用の可否

爆発物、有毒物、可燃物等の集積場所

倒壊の恐れのある家屋、煙突、塀、自動販売機

ガラス等落下危険物 など



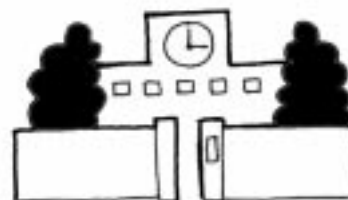
防災上の安全要因は？

井戸、貯水槽等の水源

可搬式ポンプ・街頭設置消火器等の資機材設置場所

集合所、避難路、避難地、設置される救護所

学校の防災設備や避難時に使用可能な場所 など



イ 防災地図の整備・点検

地域内の危険地域や防災施設などを把握したら、その状況を盛り込んだ防災地図を作成します。

防災地図は、その地域の山崩れ・津波などの危険地域、危険な施設・設備、幹線道路、自主防災組織本部、避難所等の各種防災上必要な施設・設備を記入したもので、地域の防災上の課題を把握するのに役立ちます。



広域防災地図

5千分の1～1万分の1程度の縮尺の地図に、自分達の自主防災組織の位置、広域避難地、一次避難地、津波浸水区域等の広域的な表示事項を市町村の資料をもとに記載します

自主防災地図

1千分の1～2千5百分の1程度の縮尺の地図に、自主防災組織に属する範囲、自主防災組織本部、防災倉庫、津波避難ビル、消火栓など地域的な事項を現地調査し、記載します

集	集合所
本	自主防災組織本部
配	食品配給所
給	給水拠点
倉	防災倉庫
放	同報無線放送塔
☎	公衆電話
⋮	⋮
⋮	⋮

〇〇地区防災地図

広域防災地図及び自主防災地図に記載する項目については、地域の特性を考慮しながら決定します。
記載するマークの形、色、大きさについても工夫してみましょう。

リーダーの役割(3) 自主防災組織の活動目標の設定と計画の策定

あなたの自主防災組織の現状を分析し、組織の活動目標や防災訓練、研修会等の計画の策定をすることは、自主防災組織の存在意義に直結する問題です。また、各班の班長などの意識の高揚にも役立ちますので、リーダーシップを発揮し、組織的に取り組む必要があります。

[中・長期計画] (例)

(目標) 1年目：家庭内対策の徹底・台帳の見直し
2年目：各班の行動の明確化
3年目：防災資機材の充実

(行動計画)
1年目：家庭内対策の徹底
4～6月 組長による家具の固定等のアンケート・台帳の見直し
7～8月 家庭内対策の講習会の実施
9～1月 家庭内実施状況のチェック

[年間計画] (例)

平成 年 月 日 自主防災会打ち合わせ
月 台帳見直しのための用紙配布
月 家具の固定等のアンケート実施
月 台帳の作成
月 班単位の検討会
月 班単位の課題の研究
月 防災資機材の点検
月 家庭内対策講習会
月 総合防災訓練打ち合わせ
月 総合防災訓練
月 地域防災訓練打ち合わせ
月 資機材の点検
月 地域防災訓練
月 防災講演会
月 個別訓練の実施打ち合わせ
月 個別訓練

事業・活動計画策定の流れと留意点

班別に計画を検討

1



できるだけ多くのメンバーに参加してもらって意見を出し合い、各班別で検討を行うようにする。各部門別の検討を行うことで、活動の漏れをチェックすることができる。

優先順位をつけて検討

2



各班別の意見を相互の関連などを考慮してテーマ別に整理し、項目別に優先順位をつけていく。その際、緊急性、重要性、実現可能性などの基準を立てて、それぞれに検討していくと討議が進めやすい。

時間や予算を加味して計画作成

3

テーマ別に整理されたものを、組織の現況をにらみながら、時間的制約、予算などの要素を加味して、活動計画を作成していく。



年間重点項目の決定

4

年間活動計画に特徴を持たせるために、年間ごとの重点項目(目玉事業)を決めるのもよい。

